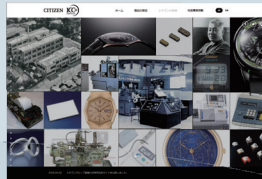


特集 創業100周年記念 | 社会とシチズンの100年

市民の一員として、市民に貢献するものづくりを、次の100年も。

シチズングループは2018年、創業100周年を迎えました。1918年に「懐中時計を国産化したい」という思いのもと、シチズン時計の前身である尚工舎時計研究所創立以来、私たちは「CITIZEN=市民」の一員として、市民の皆さまの暮らしに貢献していきたい、という想いを胸に時を刻んできました。時計から始まったシチズンのものづくりは、現在では工作機械や情報機器、LEDに至るまで製品分野を広げてきました。また、日本発のものづくりを世界に発信すべく、いち早く時計の輸出や、技術連携、海外拠点の設立を行うなど、積極的に世界へ展開してきました。

これまでの100年を大切にしながら、これからもシチズングループは、世界中の皆さまとともに歩んでまいります。



関連情報 「創業100周年記念サイト ―製品の歴史―」

<http://www.citizen.co.jp/100th/history/index.html>

| 製品分野の拡大

| 世界への展開

| 社会への貢献

1965年 電子機器
電動加算機「CA10」

時計製造で培った精密技術を活かすべく、事務機器分野に進出。



1965年 事業経営
西ドイツに
時計販売事務所開設

欧州への本格的輸出。

1960年 時計
国産初の視覚障がい者向け
腕時計「シチズン シャイン」
発売



1960年 事業経営
インド政府と技術援助契約調印

工作機械・時計部品の輸出。



1970年 工作機械
主軸台移動形NC自動施盤「D16」

世界初NC自動施盤登場。
ベストセラーマシンとなる。

1970-1979
【自由】

1960年 事業経営
米国グローバ社と提携

米国輸出を本格化。

1960-1969
【開拓】



1966年 時計
エックスエイト(X-8)

国産初の男性用本格的電子式腕時計。当時、一年間止まらないという驚異の性能を実現。

1957年 計測機器
計測機器「トリメロン」
「ニューメロン」



1968年 事業経営
シチズン・デ・メキシコ
設立

メキシコにシチズン初の海外腕時計製造・販売会社設立。

1918年
尚工舎時計研究所創立。

シチズン時計の前身となる。

1924年 時計
CITIZEN

現在の社名を冠する懐中時計第一号完成。



1993年 宝飾
シチズンパール

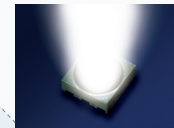
業界に先駆け、独自の品質評価基準を設定し消費者へ開示。



2002年 LED

カメラ付携帯電話向け
照明用チップLED

世界初の携帯電話用フラッシュLEDを開発。これを機に携帯電話にフラッシュが搭載。



1993年 時計
電波時計

世界初の多局受信型アナログ式クォーツ電波時計。



1990-1999
【進化】

1980-1989
【飛躍】

1982年 時計
国際陸上競技連盟の
シチズンゴールドンマラソン
(アテネ)で公式計時を担当

1990年 CSR
年間顕彰制度
「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
創設



1983年 健康器具
ICセンサー電子体温計
「CT-20」

世界初ICセンサー搭載。



1976年 時計
クリストロン ソーラーセル

世界初の太陽電池充電のアナログ式クォーツ腕時計。電池交換を不要とする先見的エコ製品開発の最初の成果。



1978年 水晶
シリンダー型エッチング
音叉水晶振動子
「CFS145」

耐衝撃性に優れており、携帯機器に最適。通信/AV/OA/計測機器、各種時計のクロック源となる。



1986年 時計
腕時計年間生産量世界一
(ムーブメント換算)



自然エネルギー
エコマーク認定番号
06 134 011

1996年 時計
エコ・ドライブ

腕時計初のエコマーク取得。



1995年 時計
THE CITIZEN

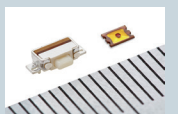
シチズン時計(株)創立65周年に発売された業界初の10年保証の年差±5秒のアナログ式クォーツ腕時計。

2009年 情報機器
液晶表示サーマルプリンタ
「CT-S801」



2015年 スイッチ
世界トップクラスの
薄型・小型スイッチ

スマートフォンやウェアラブル端末など小型機器向けに活躍。



2016年 時計
光発電エコ・ドライブウォッチ
「Eco-Drive One
(エコ・ドライブワン)」

薄さ1.00mmのムーブメントを内包した世界最薄2.98mm(設計値)の光発電ウォッチ。



WE SUPPORT



「シチズン社会貢献活動派遣制度」

シチズングループでは、企業は人で成るという考えのもと、これまでも従業員に様々な成長の機会を提供してきました。また人々に愛される製品やサービスを生み出していくには、社会や世界を知り、視野を広げ、学んだことを活かし、新たな価値観を取り入れて組織を活性化することが重要だと考えています。

100周年を迎える2018年をシチズングループの更なる進化のきっかけの年とすべく、新たな取り組み

として「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。この制度は、シチズングループの従業員が国内外の各所へ赴き、その地域における社会課題と向き合い、支援活動を行うもので、今年度は、7カ所で、「学習・教育」「環境」「災害支援活動」の分野を中心に、支援活動を行います。この派遣制度は、シチズングループが次の100年も社会に貢献し続けるために、毎年継続していきます。

シチズン独自の取り組み「CITIZEN First Watch(はじめての時計)Project」

「CITIZEN First Watch Project」とは

「シチズン社会貢献活動派遣制度」において、最も力を入れていく活動のひとつが、シチズングループのルーツであるものづくりの技術を通じ、ものづくりの楽しさや時の大切さについて学んでもらう時計工作教室「CITIZEN First Watch(はじめての時計)Project」です。

シチズングループの海外拠点のあるタイやフィリピンでは、子どもの教育格差が大きいのが問題となってい

ます。また、日本国内において、岐阜県可児市には、海外から移住した両親を持ち、言葉の壁から不就学となる子どもが多くいます。そうした子どもたち自らの手で作った時計が、これからの時を刻み、自分の将来に夢を描けるようにとの思いを込めて、自分だけのオリジナル時計制作を通して、次の世代を担う子どもたちにもものづくりの達成感と、新しいことを学ぶ喜びを知り視野を広げてもらう機会を提供します。



フィリピンでのFirst Watch Project

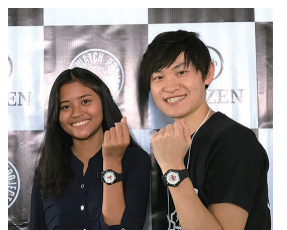
参加した従業員からの声

私がこの社会貢献活動に参加した理由は、フィリピンの貧困層に位置する人々がどのような生活をしているのか、実際に現地に足を運び、生活を肌で感じ、生の声を聞くことで、その地域の人々が何を求めているかを知りたかったからです。今回の活動は、親から虐待やネグレクトを受け、一時保護施設で暮らす子どもたちへの支援と交流でした。渡航前から「時の大切さ」を伝える資料を考案し、時計の針付けの練習を重ねて本番に臨みました。本番当日は、子どもたちが本当に喜んでくれるか不安な面もありましたが、「世界にひとつだけのオリジナル時計」を身に付けた時の子どもたちの表情が忘れられません。

シチズン時計マニファクチャリング 桑原 泰斗

また、普段交流する機会が少ないシチズングループのメンバーと活動や寝食を共にし、何でも話し合うことで、今までより一層グループとしての絆が深まったように思います。

この活動を一過性のものにせず継続させるために、活動の様子をグループ全体に広め、1人でも多くの人に参加し、各々がこうした経験を今後の仕事に活かすことで、企業価値向上へ寄与できればと考えています。



派遣先と内容活動

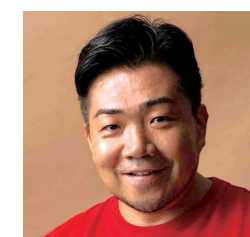
プロジェクト名	訪問先	活動内容
1. 子ども支援プロジェクト	フィリピン オロンガボ市	「CITIZEN First Watch Project」他
2. 外国にルーツを持つ若者のキャリア育成プロジェクト	岐阜県可児市	「CITIZEN First Watch Project」他
3. マングローブ植樹	カンボジア カンボット州	環境保全
4. 森林保全ボランティア	栃木県市貝町	環境保全
5. 過疎・高齢化地域のコミュニティサポート	長野県飯島町	環境保全
6. 被災地の復興支援	宮城県石巻市	災害支援
7. 子ども支援プロジェクト	タイ コラート県	「CITIZEN First Watch Project」他



関連情報 「創業100周年記念サイト ―社会貢献活動―」

<http://www.citizen.co.jp/100th/contribution/index.html>

派遣先からの声



シチズンの時計を普段から愛用している私は、今回のプロジェクトをとっても楽しみにしていました。子どもたちにとっても、参加者のシチズングループの従業員の方々にとってもはじめての経験。時計づくりを通して心と心、笑顔と笑顔がつながった瞬間に立ち会えたことは幸せでした。

NPO 法人アクション 代表 横田 宗氏

今回の活動に参加した従業員の方からは、シチズングループ全体に愛着が持てるようになったという声も聞きました。NPO と企業のパートナーシップは企業が NPO を支援するものではなく、それぞれの組織に良い相乗効果を生んでいき、より良い社会を創っていくものだと思います。この取り組みが長く続くことにより、多くの子どもたちに笑顔そして未来への希望を生み出していくことを期待しています。